

28. 保護者から見て、本人にいま、一番必要なのは何か？									
意味		1年		2年		3年		計	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
学習意欲	①	67	28	55	32	36	22	158	28
将来の目標	②	87	37	50	29	34	21	171	30
自己管理能力(自律・自立)	③	62	26	49	28	64	39	175	31
友人・相談相手	④	8	3	6	3	8	5	22	4
保護者との対話	⑤	2	1	0	0	3	2	5	1
その他	⑥	10	4	14	8	18	11	42	7
計		236	100	174	100	163	100	573	100

29. 子どもさんは現在、塾・予備校などに行っていますか？									
意味		1年		2年		3年		計	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
行っている	①	81	34	84	48	114	70	279	49
行っていない	②	145	61	78	45	49	30	272	47
行く予定にしている	③	10	4	12	7	0	0	22	4
計		236	100	174	100	163	100	573	100

30. 鳳高校の情報を知る方法は何ですか？									
意味		1年		2年		3年		計	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
子どもさんからの話	①	86	36	76	44	73	45	235	41
学校からの文書・ニュース	②	44	19	37	21	24	15	105	18
保護者間の連絡	③	2	1	5	3	5	3	12	2
学校のホームページ(22年公式SNS)	④	13	6	5	3	12	7	30	5
緊急連絡システムのメール(21年classroom)	⑤	87	37	46	26	44	27	177	31
ほとんど知らされていない	⑥	4	2	5	3	5	3	14	2
計		236	100	174	100	163	100	573	100

31. お子様は自転車通学時にヘルメットを着用していますか？									
意味		1年		2年		3年		計	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
必ず着用している	①	7	3	3	2	3	2	13	2
たまに着用している	②	9	4	5	3	4	2	18	3
あまり着用していない	③	62	26	53	30	35	21	150	26
まだヘルメットを持たせていない	④	112	47	89	51	95	58	296	52
そもそも、自転車通学ではない	⑤	46	19	24	14	26	16	96	17
計		236	100	174	100	163	100	573	100

32. 科目選択の説明会に参加しましたか？									
意味		1年		2年		計			
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
はい	①	127	54	60	34			187	46
いいえ	②	105	44	114	66			219	54
計		232	98	174	100			406	100

33. 子どもさんが鳳高校を受験しようと思った第一の理由は何ですか？									
意味		1年		2年		3年		計	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
単位制高校だから	①	16	7						
自分の学力にあった	②	148	63						
塾・中学の先生の指導	③	17	7						
保護者・家族の推薦	④	8	3						
クラブをしたかったから	⑤	16	7						
鳳高校の伝統・校風	⑥	14	6						
その他	⑦	17	7						
計		236	100						

34. 高校受験で、私学ではなく、鳳高校に進学した理由は何ですか？									
意味		1年		2年		3年		計	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
経済的理由	①	75	32						
魅力(進学実績・クラブ・伝統)	②	109	46						
その他	③	52	22						
計		236	100						

第2部 分析と考察

1. 各担当者による分析

【① 年次・期別特性】

とくに差の大きかったものについて考察した。「学校に行くのが楽しい」については肯定的な意見が多いのは良いことだが、2年次でネガティブな数字が見られる。委員の分析の中では、メンタル面での弱さを持つ生徒の多さ、トラブル、勉強のつまづきなどが2年にあるのではないかと、といった意見が出た。これは、いわゆる「『中だるみ』の2年」と呼ばれる現象とも一致するものであり、今後も続けてテコ入れしていく必要があると考えられる。一方、2年生では「ボランティアへの参加」の数字にわずかであるが増加が見られた。委員の中では「部活動で小・中学生と触れ合う機会が増えた」「地域の団体に所属して、清掃活動などを行っている」などの予測があったが、これという理由がわからなかった。

【② 三者間比較】

肯定的な意見が多くみられている点については、方向性として問題ないとする。「将来の進路や生き方について」の項目では、2年生で他学年より低い数字が出ていた。上記分析でも出てきたが、「中だるみ」の現れとも考えられる。それゆえに、改善の余地のある項目ではあるので、教職員側の意識も高く持って、生徒の指導にあたっていくのが良いという意見があった。また、「コース選択や科目選択」「進路決定に必要な情報集め」といった点で、生徒の認識と保護者の認識にずれがあった。背景はさまざまに考えられるが、委員の分析では生徒・保護者間での情報共有がうまくいっていないのではないかと、という意見があった。また、「意識格差」という意味では、HP や SNS での情報提供について教職員が思う以上に生徒・保護者は「見ていない」ということが数字で出ていた。感染症が落ち着いて、生徒・保護者がそうした情報を積極的に取りに行かないということもあると思われる。一方で、情報発信の在り方として「こまめな更新」や、「更新通知」などこちらから「知らせる」形があっても良いのかもしれない。

【③ 経年変化】

今年は昨年と今年に絞って分析をおこなった。傾向はほぼ一緒ではあるものの、肯定的な意見が微増している。(数値の悪化はほぼ見られない。)数値では「一人一台端末の活用」「行事について」あたりで肯定的意見の増加がみられ、コロナの状況(端末の普及、行事の解禁)がこうした点に影響を与えていると考えられる。また、「相談体制」についても「親身になってくれる先生がいる」の肯定的意見が増えていることは良い点だといえる。また、「入学して満足している」の「よくあてはまる」が昨年 35%から 10%増

の45%であるのは良い点だといえるものの、さらに伸ばしていくことができる余地のある数値であるので、さらなる取り組みを継続していくことが大切だと考える。なお、「施設・設備の充実」という項目を細分化し「学習面」「部活動面」などについて意見を聞くことで、改善点が見えてくるかもしれない。

【④ クロス集計】

「学校が楽しい」に対して肯定的に答える生徒は、勉強面でも部活面でも肯定的な回答を行うものが多いし、その逆もまたしかり、であった。その意味で、基本的には「想定通り」の結果であったと考える。一方で、「スマホの使用時間」については学習時間や学習理解と相関がなさそうに見られた。このことは「スマホを用いた学習が定着している」と取るべきか、「スマホが時間泥棒になっている」と取るべきか、結局、個人個人の問題なのか…判断のしがたい点である。先の分析にもあったように、アンケートを細分化することでより良いデータが得られるかもしれない。（一方、項目が増えすぎるのも考えものである。）

【⑤ 記述】

さまざまなご意見を頂戴した。教務・進路指導を中心に分析し、今後の活動に資することとする。

レポート【①年次・期別特性】

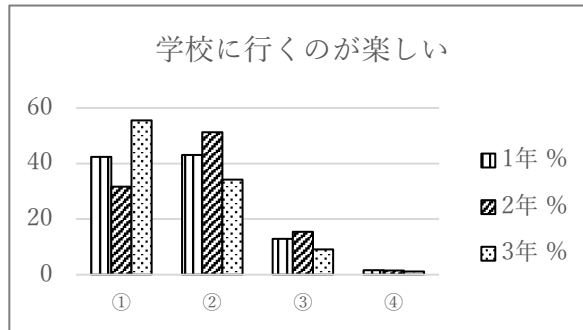
Q1～23の分析(学年間で差が大きかった問いについて)

【1】学校に行くのが楽しい

3年生で①「よくあてはまる」の回答が多い。

一方で2年生で自信をもって①を選択できない生徒が多いようである

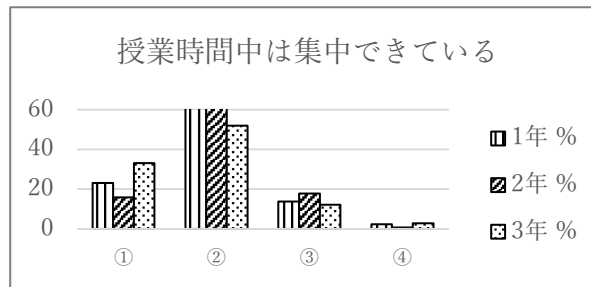
	1年	2年	3年
	%	%	%
①	42	32	56
②	43	51	34
③	13	15	9
④	2	2	1



【2】授業時間中は集中できている

全学年総じて、①「よくあてはまる」と回答した生徒は少なく、自己評価の厳しさも伺えるのではないかと思う。その中で①と回答した3年生の割合は他学年と比べて多い。

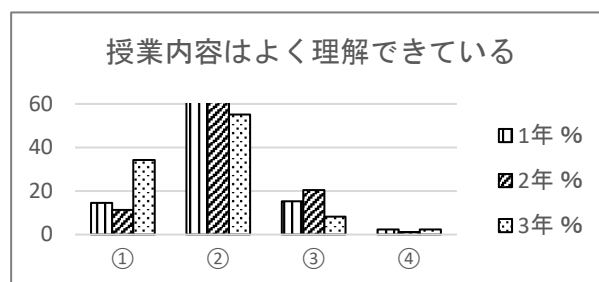
	1年	2年	3年
	%	%	%
①	23	16	33
②	61	66	52
③	14	18	12
④	2	1	3



【3】授業内容はよく理解できている

【2】と同様の傾向があるが、1, 2年生の①の割合は【2】よりもさらに低く、授業に集中しているものの内容が理解できないと感じている生徒がいる可能性がある

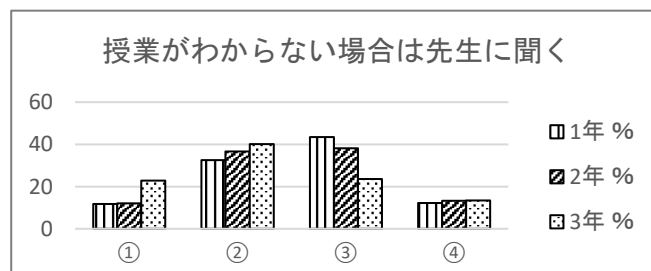
	1年	2年	3年
	%	%	%
①	15	11	34
②	68	67	55
③	15	20	8
④	2	1	2



【4】授業がわからない場合は先生に聞く

全体的に①と回答した生徒の割合は少ない。①と回答した生徒の割合は3年生が他学年に比べると高いが、逆に③「あまりあてはまらない」と回答した1年生が多い。

	1年	2年	3年
	%	%	%
①	12	12	23
②	33	37	40
③	44	38	24



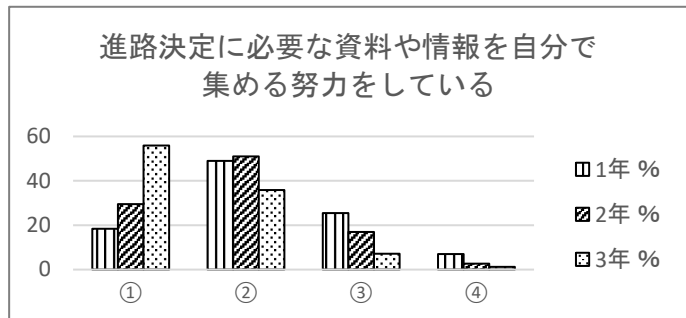
④	12	13	13
---	----	----	----

【9】進路決定に必要な資料や情報を自分で集める努力をしている

3年生で①と回答した生徒は過半数を超えており、受験に向けての姿勢が伺える。

一方で2年生で①と回答した生徒の割合に伸びがない点が目立つ。

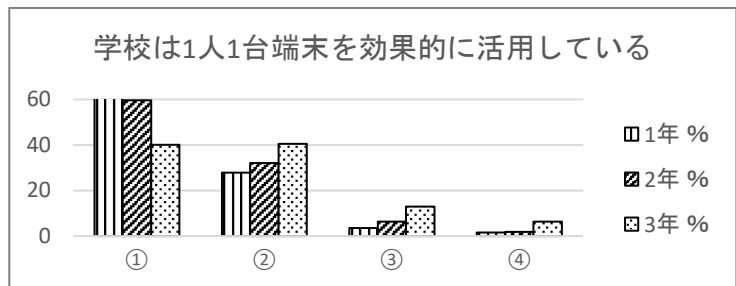
	1年	2年	3年
	%	%	%
①	18	29	56
②	49	51	36
③	25	17	7
④	7	3	1



【22】学校は1人1台端末を効果的に活用している

3年生において他学年に比べると①「よくあてはまる」の回答が少なく、③「あまりあてはまらない」の回答が多い傾向がある。

	1年	2年	3年
	%	%	%
①	67	60	40
②	28	32	41
③	4	6	13
④	2	2	6



Q24～35の分析(学年ごとに特徴的なもの)

1年

平日の授業以外の学習時間が「1時間未満」「ほとんどしない」の合計が50%を超えている。

休日に関しては「4時間以上」は3%となっており、ほとんどしていない。

スマホの使用時間の「5時間以上」は2・3年と比べると多い。

2年

塾・予備校に「行く予定」は1・3年と比べると多い。

入学以来ボランティア活動に参加したことが「ある」は、1・3年と比べるとわずかながら多い。

3年

受験生ということもあって、平日・休日ともに学習時間の解答は①が多い。

校内での講習の参加率、塾・予備校に通う率は1・2年と比べると多い。

心配なことの項目の「人間関係」の選択者は1・2年と比べてかなり少ない。逆に「進路・科目選択」は多い。

レポート【② 三者間（教職員、生徒、保護者）比較】

① 授業の様子

【教職員 1】生徒は熱心に授業を受けている	よくあてはまる 64%
【生徒 2】授業時間中は集中できている	よくあてはまる 24%

(分析) 教職員の半数以上が、生徒は熱心に授業を受けていると感じているが、生徒はしっかり集中できていないようである。また 20 代の教職員（回答数 5）は全員、生徒は熱心に授業を受けていると回答している。

② 授業の様子と生徒の理解度

【教職員 2】生徒は授業内容をよく理解できているようだ	よくあてはまる 21%
【生徒 3】授業内容はよく理解できている	よくあてはまる 20%
【保護者 2】子どもは授業内容はよく理解できている	よくあてはまる 8%

(分析) ①授業の様子で、「生徒は熱心に授業を受けている」と回答している教職員も、理解にはつながっていないと感じており、授業の様子＝理解度ではないことがわかる。生徒と保護者も「よくあてはまる」の割合は低く（保護者は 10%にも達していない）、改善の余地がある。

③ 相談できる環境

【教職員 4】生徒が悩みを相談しやすい環境が整っている	あまりあてはまらない 12%
	あてはまらない 0%
【生徒 11】悩みや相談があるときには、保健室や相談室	あまりあてはまらない 25%
等で、気軽に相談することができる。	あてはまらない 18%

(分析) 保健室や相談室などが整備され、相談できる環境があるにもかかわらず、生徒の 18%は気軽に相談できないと回答している。

④ コース選択、科目選択の情報提供

【保護者 6】科目選択のための情報は学校からよく提供された	よくあてはまる 22%
【生徒 7】科目選択のための情報は学校からよく提供された	よくあてはまる 36%
【教職員 27】教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や	よくあてはまる 36%
地域への周知に努めている	

(分析) 保護者・生徒ともに「ややあてはまる」を含めると 80%を超える割合だが、「よくあてはまる」の割合は最も高い結果ではない。コースや科目選択は鳳の大きな特色の一つであり、その情報提供が徹底されていないとなると、魅力が活かされていないのではないか。

入学動機が「単位制だから」という生徒は 11%と少ないが（最も多いのは「自分の学力にあったから」）、早

期から進路指導やガイダンスに力を入れている鳳高校の魅力を出していかなければ、他校との差別化が図られない。

⑤将来の進路や生き方について

【生徒 5】考える機会がある	よくあてはまる 44%
【教職員 3】意識を啓発し、意欲を高める工夫をしている	よくあてはまる 27%
【教職員 19】系統的なキャリア教育を行っている	よくあてはまる 21%

(分析)教職員の「よくあてはまる」の割合は低いのに対し、生徒は44%であった。教職員の意識がもっと高くなれば、生徒たちの「よくあてはまる」の割合は高くなるのではないか。また、2年生は「よくあてはまる」の割合が35%で、1,3年生よりも低かった。進路について考え、行動していかなければならない時期にきているのに低く残念な結果であった。改善の余地あり。

⑥コース選択や科目選択について

【生徒 6】迷った	よくあてはまる 30%
【保護者 8】迷ったようだ	よくあてはまる 14%

⑦進路決定に必要な情報集め

【生徒 5】努力している	よくあてはまる 34%
【保護者 8】努力をしているようだ	よくあてはまる 17%

(分析)⑥、⑦は生徒と保護者の「よくあてはまる」の割合でおおよそ2倍の差があった。家ではコース・科目選択、進路の情報についての話をしていないのかもしれない。

⑧学校のホームページ・公式 SNS

【保護者 22】よく見る	よくあてはまる	14%
	あてはまる	35%
	あまりあてはまらない	40%
	あてはまらない	11%
【教職員 28】活用されている	よくあてはまる	55%
	あてはまる	39%
	あまりあてはまらない	6%
	あてはまらない	0%

(分析)教職員は9割が活用されていると考えているが、保護者は見ない、あまり見ないという方が半数。この差をどう考えるか。(コロナが5類に移ってから見る頻度が減ったのかもしれない)

レポート【③ 経年変化】

I 生徒質問項目における経年変化

生徒質問項目において22年度から23年度での肯定的な意見（「よくあてはまる」「あてはまる」）の回答率の変化を比較したところ、ほとんど微増で変化は小さく、悪化が目立つ項目もなかった。そこで、特に「よくあてはまる」の回答率が顕著に増えているものをいくつか採り上げ、分析を試みることにした。

①授業に関わる質問項目

【22】 学校は1人1台端末を効果的に活用している

	22年	23年
	%	%
①	44	56
②	40	33
③	13	8
④	4	3

【16】 授業などで、自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある

	22年	23年
	%	%
①	45	57
②	50	39
③	5	3
④	1	1

(分析①) 1人1台端末(chromebook)の活用が拡充していることがわかる。それにより授業では、レポートやプレゼンテーションの作成、スライド等を使った意見交流などが容易になり、探究的な学びの実現につながっていると考えられる。

②自治会行事に関わる項目

【14】 自治会の行事は自主性・連帯感を高めることに役立っている

	22年	23年
	%	%
①	31	38
②	53	49
③	11	11
④	5	3

(分析②) コロナの影響でしばらく中止や縮小を余儀なくされていた学校行事が以前のような形態で実施できるようになったことが増加の要因であろう。この傾向は今後も続くだろうから、内容面での生徒の満足感が表れるのは来年度以降かもしれない。

③相談体制に関わる項目

【10】 悩みや相談があるときには、親身になってくれる先生がいる

	22年	23年
	%	%
①	27	33
②	49	48
③	18	14
④	6	5

【13】 先生は、いじめについて私達が困っていることがあれば真剣に対応してくれる

	22年	23年
	%	%
①	33	39
②	55	48
③	9	10
④	3	4

(分析③) コロナ禍の影響か、生徒が抱える悩みも多様化している。教員のカウンセリングマインドも重要になってきているが、それに応えることができていると推察できる。

④鳳高校の特色に関わる項目

【21】 施設・設備が充実しており、学習・部活動環境に恵まれている

	22年	23年
	%	%
①	22	30
②	47	49
③	21	16
④	10	5

【8】 自分の進路に必要な科目が本校の授業から選択できる

	22年	23年
	%	%
①	53	60
②	41	35
③	4	3
④	2	2

【23】 本校に入学して満足している

	22年	23年
	%	%
①	35	45
②	50	45
③	10	9
④	4	2

(分析④) 鳳高校の特色である広いグラウンドや単位性の特色を生かしたカリキュラム等の環境面で、生徒の自己実現を支えることができていると言える。「本校に入学して満足している」という質問に対する「よくあてはまる」の回答も10ポイント増加し喜ばしいが、とはいえ45%であるのでさらによくしていける余地がある。

II 保護者質問項目における経年変化

保護者質問項目において22年度から23年度での回答を比較したところ、大きな変化はほとんど見られないなかで、肯定的な意見の回答率が比較的大きく増えたのが以下の2項目であった。

【10】子どもは積極的に行事に参加しているようだ		
	22年	23年
	%	%
①	34	45
②	48	43
③	16	10
④	3	2

【21】本校の授業公開や学校行事に参加したことがある		
	22年	23年
	%	%
①	13	26
②	27	42
③	29	17
④	30	15

(分析) 生徒質問項目においても同じ傾向が見られたが、コロナ禍が収束しつつあり、生徒も保護者も学校行事に積極的に参加できるかつての状況がもどってきた結果だと言える。

2. 最後に

生徒や保護者の方々、ならびに先生方のご協力のおかげで、今年度も学校教育自己診断を終えることができました。改めてお礼申し上げます。

今年度は、一昨年来、実施時期が遅れていたことの反省から、委員会の発足時期を早めて5年前と同様の時期（11月）としました。とはいえ、この5年間でさまざまな変化もあり、急なお願いすることも少なくなかったと思われます。そのため、実施にあたってはご迷惑をおかけしました。実施形態については、一昨年から Google フォームでおこなってきましたが、回収率が低いことが課題となっておりました。本年度はその反省から、Class room で数度に渡り「回答へのご協力をお願い」を流させていただきました。すでにお答えいただいていた方にはご迷惑をおかけしたかもしれません。ただ、その成果があったのか、回収率は R2 年度程度にまで増加しました。今後もさらなる回収率の向上へむけて実施方法などを考えてまいります。また、アンケートの分析・考察にあたっては、昨年とりやめた「委員による分析」を、形式を変えて復活させることで、委員の先生方の負担軽減と、分析結果のよりよい共有を両立させようと試みました。担当いただいた委員の先生方におかれましては、年末年始のご多忙な中、学校運営に関わる貴重な分析をいただき、ありがとうございました。

さて、今回のアンケートでは、満足度が全体的に高いという傾向は維持されており、さらに、「よく」「やや」の割合でみたときに、「よく」の割合が増加しているという結果がありました。これは「コロナ明け」ということで、学校に「日常」の風景が戻ってきたことも示しているものと思われます。とりわけ、学校行事が以前の規模で行えるようになったことは、生徒の学校生活に大きな影響を与えているという、我々教職員の実感と合致していると感じます。一方で ICT 機器の活用が進んでいることも、「コロナ」の影響と言えるでしょう。この数年で培った知識・技術・経験を活かして、「アフターコロナ」と呼ばれていた「今」や「明日」をより良いものにしていかなくてはなりません。また、いただいたご意見・ご助言の中には、情報発信にかかわることも少なからずありました。進路や科目選択に関する情報については、保護者のみなさまにとっても関心の高いことだと感じています。本校の特色である単位制、それを支える「ガイダンス」というシステムをより充実させる方向で検討を進めてまいります。また、情報を伝える方法についても学校ホームページの更新、SNS を活用した情報提供、Class room による情報発信といった ICT 環境を駆使した取り組みを推進してまいります。その他、個人が特定される可能性のある文章につきましては掲載を差し控えさせていただき、共有や注意等を行います。

なお、次年度につきましては、現在、学校組織の再編を行っており、学校教育自己診断の実施母体も変更が予想されます。これまでの経緯をふまえ、より良いものとなるように丁寧に引き継ぎを行う予定です。ご協力、本当にありがとうございました。